

マスタープランの基本的な考え方

第2章

土佐清水市の観光の理念ならびに目指すすがたを明確にし、観光マスタープランの5年間の計画期間において実現していくべき2つの目標を掲げます。

2-1 土佐清水市観光の理念

本市は、1970（昭和45）年にその海岸線のほとんどが足摺宇和海国立公園に指定され、以降、雄大な自然環境をベースに足摺岬や竜串を中心とした有数の観光地として発展してきました。昨今では観光ニーズの多様化が叫ばれるなか、体験型・滞在型観光への取組や観光と地域産業との連携等、個人客・外国人観光客への対応やリピーターの確保に向け、積極的に展開を図ろうとしているところです。

一方で、少子高齢化による地域経済の衰退、祭りや食などの地域文化の継承に対する不安も高まっています。また、観光客は現状70万人前後で推移していますが、宿泊者数の増加とともに80万人観光を目指していくには、受入側の体制は脆弱であるといわざるを得ず、老朽化する施設への対応をはじめ、多様な地域資源も有効に活かされていない状況です。但し、このような中で、本市においては2014（平成26）年より「ジオパーク」としての指定を目指し、また、竜串地区においては、新海洋館やビジターセンターの建設、爪白キャンプ場の整備等、新しく力強い風が吹いてきたことも事実です。

マスタープランは、本市における観光政策の軸となるものですが、これによって観光振興をなすことで観光地・土佐清水としての矜持を持ち、そしてなによりも市民が誇りと幸せを感じ、ここに暮らし続けていけることが大切です。市民の主体性や社会的・文化的な自立性を高めることはすなわち「まちづくり」です。したがって、マスタープランは市民の生活を豊かにする「観光まちづくり」の指針であるともいえ、市民、観光客、観光関係者の全てが楽しく活力を持てるまちにしていくことを目指します。

このような考え方をベースに、本市観光の理念は、本市総合振興計画に基づき、以下のよう

みんなでつくる愛と自然に満ちた活力あるまち

本市における観光振興はまちづくりです。

紺碧の海やダイナミックな景観、地元の祭りや食、暮らしの歴史と文化、土佐清水にある全ての資源を守り活かし、自らが誇りを持って訪れる人たちにもその価値を伝えていきます。

訪れる人ももてなす人も、お互いが楽しく笑顔にあふれ、新しい発見や新しい出会いが生まれる、そんな観光まちづくりを目指します。

2-2 目指すすがた

前項の土佐清水市観光の理念を踏まえて、本市観光が将来的に目指すすがたを示します。このすがたの実現に向けて具体的な取組を進めていきます。

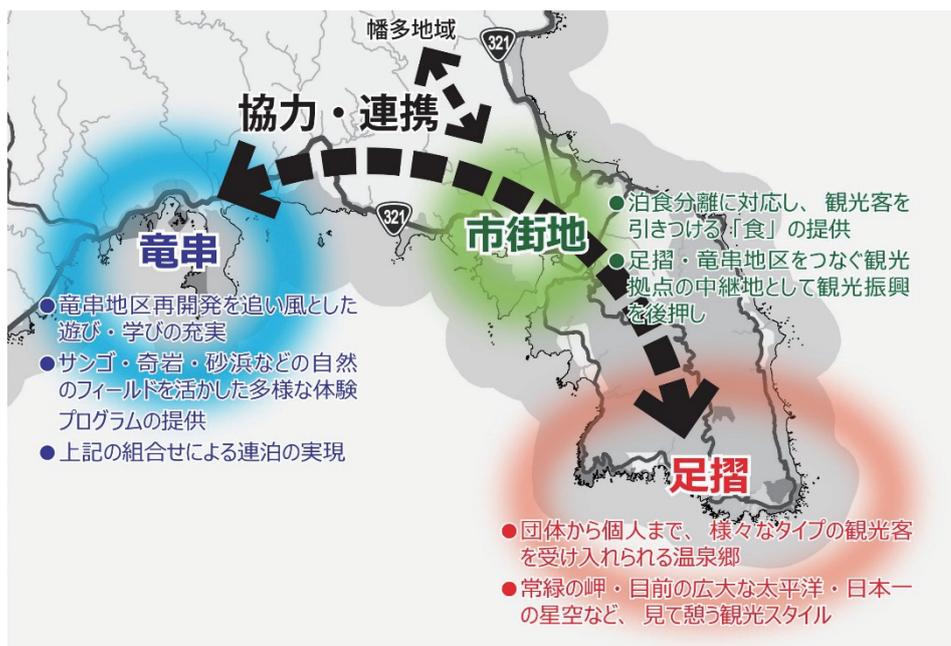
市民誰もがおもてなしの心を持つ観光地

市民一人ひとりが地元の豊かな自然や歴史・文化的な価値をよく知り、誇りと愛着を持ち続けます。このことによって、本市を訪れる人が、どこに行っても誰と会っても何をしても楽しさや感動を覚える観光地を目指します。



地域が連携し多様なニーズに応えられる観光地

人材、施設、交通などの充実が図られ、足摺地区・竜串地区・市街地が協力連携して、「宿泊」、「遊び・学び」、「食」といった団体・個人の様々なニーズに応えられる魅力的な観光地を目指します。また、広く幡多地域との連携も図ります。



2-3 マスタープランの目標

本市は、将来にわたって目指すがたの実現に向かって様々な取組を進めていきますが、マスタープランの期間は当面の5年間であるため、本期間の成果目標を定めておく必要があります。目標は、達成度が把握しやすいよう数値目標とし、次章以降の実現戦略に着実に取組むことでその達成を目指します。

成果目標

1

オールシーズンの賑わいの促進

【年間80万人観光を目指す】

本市観光の魅力は海の資源によるものが多く、現状夏場の観光客が大半を占めていますが、まだそのポテンシャルは残されていると考えられます。一方、冬場のオフシーズンにおける観光の楽しみ方は少なく、今後、竜串地区の施設観光や爪白での冬場のキャンプ、足摺地区でのスターウォッチングやツバキ観光など、オフシーズンにも楽しめるメニューを拡充し、冬場の観光客増加も図ります。

2015(平成27)年における観光客数は、691,638人となっています。計画期間において春～夏季7万人増(約17%増)、秋～冬季4万人増(約15%増)を目指します。

成果目標

2

地区および主体間連携による本市滞在時間の増加

【観光客滞在の市内プラス1泊を目指す】

マスタープランによる観光振興、賑わいの促進を図っていくための具体的な指標として、本市平均宿泊数を設定します。竜串地区の再整備をはじめ、足摺地区と市内中心街との連携による泊食分離や夜のイベントなどを組合せ、本市内でこれまでよりもプラス1泊観光の増加を目指します。

現状においては、正確な平均宿泊数データがとれていないため、2017年度以降に正確なデータを把握し、その後経年的に調査を継続して計画の最終年度に達成状況を評価します。